



「あきたのそこちから」に学ぶ

柴田指導教諭 長期研修 中間報告より

8月7日(金)に開催した、授業改革推進チーム合同連絡協議会で、秋田県に派遣されている柴田和徳指導教諭から長期研修の中間報告がありました。秋田県の小学校に勤める中で、柴田先生が岡山の先生方に伝えたいことを、3つのポイントで紹介されました。

1 組織の方向：「ふるさと」をキーワードに

秋田県は、人口減少率が全国一であり、過疎化が大きな課題です。このままでは「ふるさとがなくなってしまう」という危機感から、ふるさとを担う人材の育成についての本気度が違います。**知・徳・体の育成は「ふるさとを守るため」という考えのもとに**、秋田県教育委員会が「ふるさと」をキーワードに、教育目標や教育推進計画を立て、各教育事務所、大館市教育委員会、城南小学校も目指す方向を合わせて、教育活動を進めています。

ふるさとを担う人材育成を目指し、秋田県ではキャリア教育の充実にも重点を置いています。



2 職員集団：校長先生のビジョンのもとに

城南小学校では、年度始めに**校長先生の学校経営ビジョンが時間をかけて職員に伝えられます。**そして先生方が、教務主任や担任など、それぞれの立場でそのビジョンに基づき、組織的に取り組んでいます。**チーム学校として、共通のゴールイメージを持ち、実践を進めていこう**とする意識が高いです。

3 指導の工夫：本時の目標を意識して

城南小学校では、**全体を見通した単元計画を行い、本時の目標を意識した授業構成**を心がけられています。

単元の中で、「知識及び技能」を習得することが主となる授業は、約30分で展開部分までを終え、終末の15分は適応問題や練習問題の時間に充てます。このことにより、個別に指導する時間が確保でき、授業の中で、確実に学習内容の定着を図ることができています。

一方、「思考力・判断力・表現力等」を育成することが主となる授業では、展開部分にしっかり時間をかけます。

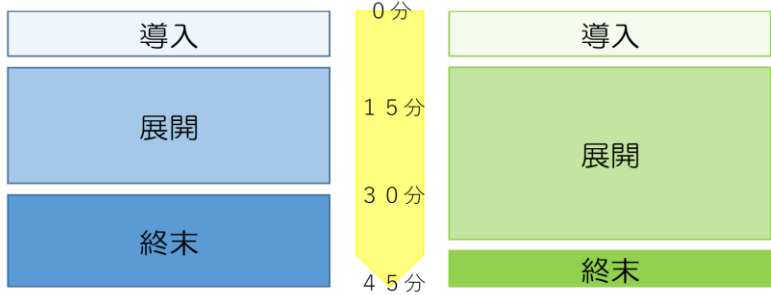
このように、単元を見通した学習計画を踏まえ、**児童に、どんな力を付けたいかによって、授業の時間配分を意図的に変えています。**(下図参照)

また、城南小学校においては、家庭学習のねらいが「自分で学習を計画して実践する力」を育てることと共通理解されており、学習内容の定着は、学校で行うものという考えがあるようです。この考えが、授業構成にも表れていると言えます。

本時の目標を意識した授業構成(柴田先生作成)

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等



本通信、「『あきたのそこちから』に学ぶ」は、これまでに5号まで発行し、各校へ送付しています。また、岡山県教育委員会義務教育課のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



義務教育課 ホームページ

<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/322/>

